

津高同窓会報

発行所
津市新町3丁目1-1
津高等学校
同窓会事務局
津 0592-28-0256・0259
共立印刷株式会社



わが津高の誇り

学校長 澤下春男

校庭で嬉々とたむけられる津高生の背に、夏がやってまいりました。同窓諸先輩各位には、国内外各地各界にて、いよいよ、活躍の場が広がっています。

でうつくしい姿が雲に映え、落成まじかです。よび一千四百の在校生のよびと誇りであり、九つよい明日への意気込みとなって、必ずや同窓各位におこたえいたすことと存じます。

深甚の敬意と感謝を申しあげる。お返しに、式典当日の来賓を心からお待ちしております。

悠久二百年、わが校の歴史の重みを感じ、私も在職者一同、お返し、お返しといたします。

大河流れて母校100年

今秋十月十二日(日)に記念式典



枝を張り、太る校庭のくす — 正門附近にて —

ヒマヤチ

戦争で失った刑部の校舎が、焼けずに立っていたと知らぬままお祖文ではないだろうか。かの偉容を忘れることができない。支那からはいつか、五年間にいっぺん、そのそいでさみしく、たごのいっぺん、つあつあつ。あの校舎にヒマヤチはよく似合っていた。校舎は焼けてもヒマヤチは残った。戦後まもない昭和二十六年、ふたたび焼け落ちた校舎の時代、津高が天皇陛下の御臨幸を受けるというので、校庭の樹木にすべりハサミを入れることがあった。美術の林義明先生が、職員会議の席上、いきなり立ちあがられて、あの木はハサミを入れないで、あの手で、あの手で、枝を張つていようと、泣かばかりに怒鳴られた。先生は、くちばりをふるわせておられた。ヒマヤチは根が深く、したがって風に揺られる。正門前の並木は、西側のが風が吹くといくとも傾き、傾いてはおくので、東側に、くちばり、葉色もよくない。東側のと同じにするのだといって、家からあたら拍もつてきて、土を掘り、埋めている生徒を百撃した。男の生徒であった。▲たいせつな人は人であり、物ではないとおもうのに、どうして校舎はこんなになつたのだらうか。県立高女の校舎は、あの教室の窓あわの意匠を思い出す。階段の手摺りの材のきまの深かつたこと。ふみ歩く階段の厚い板は、むすめたちの足あとのために、くぼんで九くぼんでいた。学校の長い廊下よ、この女学校の古きと共に、女の歴史のように長い廊下よ。県立高安さのこの校長、岡田清氏の歌に「ゴスモスの暮るるにもとる蛍光灯下下のひびき情熱のこゝろ」▼なつかしさを覚える校舎は、共に、いまはなく、いさよれば、われら、ボヘミアンなれど、ともあれ、一百年はめぐりました。われらまた、人生をめぐりました。われらまた、手に再会し、手を握り合せて、健康を祝いあいた。たすねまでヒマヤチに手を触れぬその名よろしく津中学校

川、三重橋。そして昭和二十三年以降の新しい津高同窓生のみならず、いよいよ母校津高創立百周年を迎えます。ご同窓にたいせつなことを、十月十一日の体育祭を皮切りに開催する百年祭は、五日、八日、九日、十日、十一日、十二日にわたって盛大にくりひろげられます。(二、五ページご参照)

本紙をもつて

招待状に代えます

三万余名におよぶ同窓生のみならず、いさよれば、ご案内状をまじあけることは不可能なことです。このご案内をもつて、記念式典をはじめ、一切の催しのご招待状に代えさせていただきます。生運にまたない母校の盛衰、お氣遣い、そして久々に、母校へ足をほんのりいただきますよう心からお招きいたします。(事務局)

「大河流れて…」の書について

中国は六朝時代、北魏の権威は剛快な野性美を持つ。河南省洛陽の南門口、伊水の両岸に對峙する灰岩に刻まれた龍門造像記の筆力を生かして、本校教諭千草光洞氏(六五期)が筆をふるってくれました。

10月5日(日)



ボートの一中、津中はボート」この伝統だけは捨てたくありません。少し水は汚れましたが岩田川、この日は、オールの揃ってみませんか。未経験者大歓迎、三三撥大々歓迎、ミックスチーム

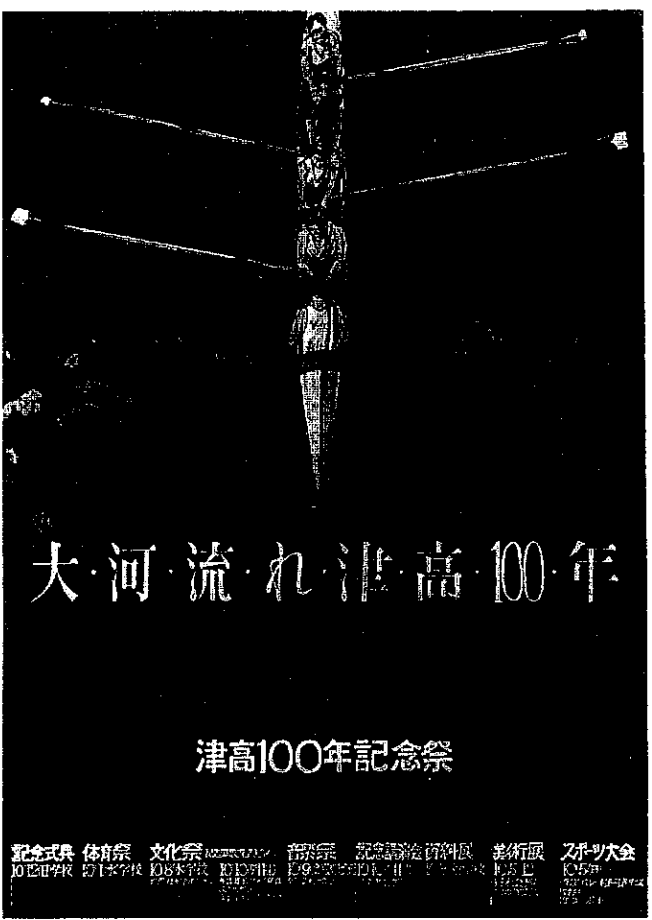
スポーツ大会ひらく 岩田川でボートレース

もつります。岩田川沿いを津高百年一色にしようではありませんか。他に次の各種目の大会が本校グラウンドで開催されます。ふるってご参加ください。それぞれお申込みは、津高校内、同窓会事務局、電話、津090二五九一八二五。

野球・テニス

同窓のみなさん、おさそいあわせ、おでかけください。

一〇〇年祭、おもな行事のご案内



大河流れ津高100年

津高100年記念祭

記念式典 10月5日(日) 10時～12時
体育祭 10月6日(月) 10時～12時
文化祭 10月7日(火) 10時～12時
音楽祭 10月8日(水) 10時～12時
記念講演 10月9日(木) 10時～12時
資料展 10月10日(金) 10時～12時
美術展 10月11日(土) 10時～12時
スポーツ大会 10月12日(日) 10時～12時

記念祭ポスター、下絵できる

村山武久氏が考案

絵かきさんは、どうして、みなさん、ご遠慮が多過ぎるんですよ。村山さんも、頑としてお引き受けいただけなかったのさ、事務局から誘引に、めっちゃくちゃ泣きついて、やっとならぬで、このポスター、津高といえども昔から津高はシンボル。オールが水から上つて、いよいよ、ボートを追って、幾枚振り直して、くたさったことか。それに第一、おれ、ゼロなんぞ、紹介するなら、村山武久さんは津高六年卒、武蔵野美術大学卒業、このみちひとすじのベテランです。



野田暉行氏

一時半よりは、津高百年記念歌の発表会がひかれます。応募作品10篇の中から、本校国語科の先生方によってえらばれ、補作された三篇が、たぐいまる作曲家野田暉行氏のところへいって

津高が生んだ作曲家

ます。野田暉行氏は本校昭和二四年卒、母校からのたの希望を受け入れてくださって、記念歌の作曲を引き受けてくれました。東京藝術大学作曲科卒業、昭和五十三年二月、尾高賞を受賞、屈指の若手の作曲家で、東京芸術大学助教授。百年記念誌に、紙道空折口信太の小説「死者の書」を音楽化した合唱曲の野田氏自身の楽譜が紹介されています。なお、津高在学当時回想した氏の寄稿も出ています。当日は、野田暉行氏みずから指揮で、音楽部の生徒たちによって発表されます。

10月1日(火)

在校生、積極的に参加

クアアセンブリで百年祭を討議

津高生たちは、生徒会執行部を中心に、百年祭を生徒みずからの手で盛りあげようと、自主的、積極的だ。百年祭について、学校の方針や計画を説明してほしいと申し出たり、クアアセンブリで百年祭をテーマに討議したり、また、百年祭標語を自分たちで募集したり、各クラスが一本ずつ記念植樹をしたいなど、あいついで案を出しています。

記念大運動会を皮切りに

恒例の秋の体育祭も、日程を百年祭にあわせて、ひとまわ盛大にやろうと、ト月一日に決まりました。津高体育祭は、昔から同窓会の参加が少なく、なっているのが残念です。ご子嬢さん方が、とび、はね、力走されるのを応援に、ことごと、わんさとかけてください。

英知をあつめて



学校執行委員会 山中暢仁 二三日来、百年祭が動きはじめたという感じがします。なんとかして盛りあげたい。そうして文化の香で津高をよみがえらせたいとわがっています。そのことは、なにもまして、津高生たちをふるいたせるからです。みなさんの英知を足腰をおかくださるようお願いいたします。

10月8日~12日

百年資料展と 恩師美術展

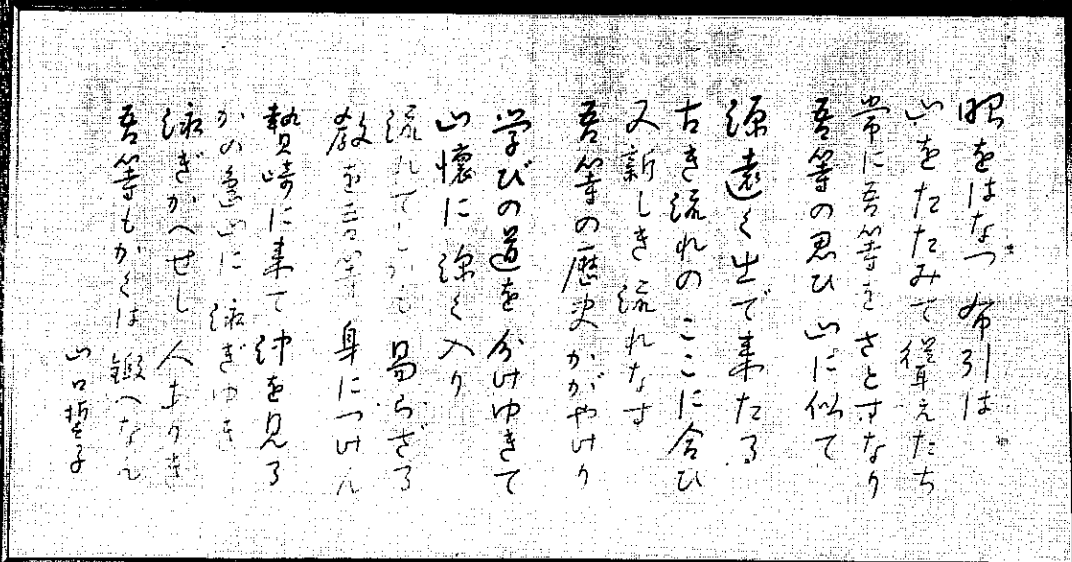
石水会館

藤島武二、鹿子木孟郎、林義明氏ら全期間にわたって、同窓のみならずから寄せられた貴重な資料を展示します。会場は本館(階会館)です。また、石水会館では、藤島武二画伯、鹿子木孟郎画伯ら本校前身の津高に教鞭をとられた有名な先生をはじめ、林義明、曾野紫山、森谷重夫氏、岩屋三石、草野慎軒氏の絵や書が展示されます。



中村画廊では津高O・B作家作品展も

ヤギさんの大崩山



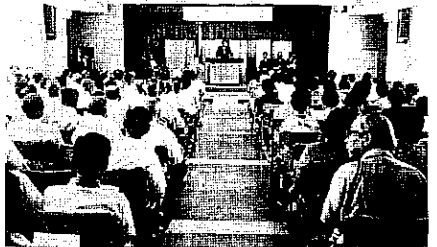
源 遠く出てきたる 古き流れのここに合
い 又新しき流れなす 吾等の距離か
がやけり 一陳川 三重の古き流れが
合流して 津高のあたらしい流れになつて
から、すでに二十年の歴史をかええた。遠
い源は明治十三年、旧津藩校、有造館の敷
地、建物を受けて開校した。爾来百年
おもむきあまりに古き流れである。水戸有
造館、山口明倫館と並び、天下の三学館
といわれた有造館は朱塗りの武門であつた
といわれた。開校当時、赤門学校と呼ばれ
た。

業以来、四十年ぶりに三重県にかえつ
てからでも、六年近い歳月が流れてい
る。毎年、三月一日には、高校の卒業式に
招かれる。県立高校より私立高校へ出るこ
とが多い。三重県に勤務していると、自分
の卒業した学校だからといって津高の卒業
式に出席するわけにはいかない。ミッショ
ン系の女子高校へいくこともある。「仰げ
ば尊し」のうたがはじまると、いまは、女
生徒よりも、父兄のおかあさん達のほう
が、いつせいにハンカチを顔にあてて泣き
ぬれる。仰げば尊しの代りに、式歌を生
徒会で選んでいる学校もある。ま君たち
」などである。

眼を放つ布引は
津高同窓会 会長 吉原一真



室の「ヤンヌ」も愛読した。佐藤春夫の
「田圃の香」なども忘れえない本であ
る。三年生になると、用画になる。その
せいか、用画に似た平面幾何の松田純一
先生も、三年生の中頃から講義に耳を傾ける
ようになった。習字と漢文の浅野儀史、国
語の森直重などの諸先生は、前記の諸先生
とともに故人となられたが、美術と共通し
た情操教育であつたせいも、はじめから興
味のあった、漢文の伊藤太郎、歴史の笹尾
半三郎、化学の寺田重雄、英語の後藤繁之
進、教練の一見藤原郎などの諸先生も、個
性ゆたかな教育者であつた。よその学校が、
講義があつても、俺はこが、い、といつ
て動かないよと名物先生であつた。先生た
ちはこの学校の空気に、土の香、動揺する生
徒のもの、信じて、自分の生き方を示す可
能のもの、他校への転動、それが都会の名門校へ転



昭和54年度津高同窓会総会風景

することであつて、自分を根こそぎに
れるような心細さがあつたのではないかと
さき思つてほだした。林義明先生にとっては
中央團體の騒々しきよりも、経ヶ峰や安濃川
が自分の世界であつた。

「三重の桜の色もよく」も「眼を放つ布引
は」も「古き流れのここに合い、又新しき
流れ」に合流して、吾等の歴史は輝かしい
悠久百年の祭り、をいよいよこの十月に迎
える二百年をめざして、津高は永遠に発展
してやまないものとおもう。

あと三ヶ月で
総仕上げ
各会場超満員で大成功を
写真説明
誓子氏が
全紙に揮毫
「津高校歌」とどく

経ヶ峯を背に 記念館 落成ま近か！

総工費五、〇〇〇万円
全国にも稀な豪華建築

河村産業所が施工 起工式から半年足らずで

記念館工事は、落札によって、著名工社の中から、名古屋に本社がある株式会社河村産業所が担当。三重支店長は昭和十七年卒業の植原佐氏で、昨寒の二月四日に起工式を挙げ、順調に工事が進行。うつくしい姿を見せかけ、予定通り完了ま近かです。

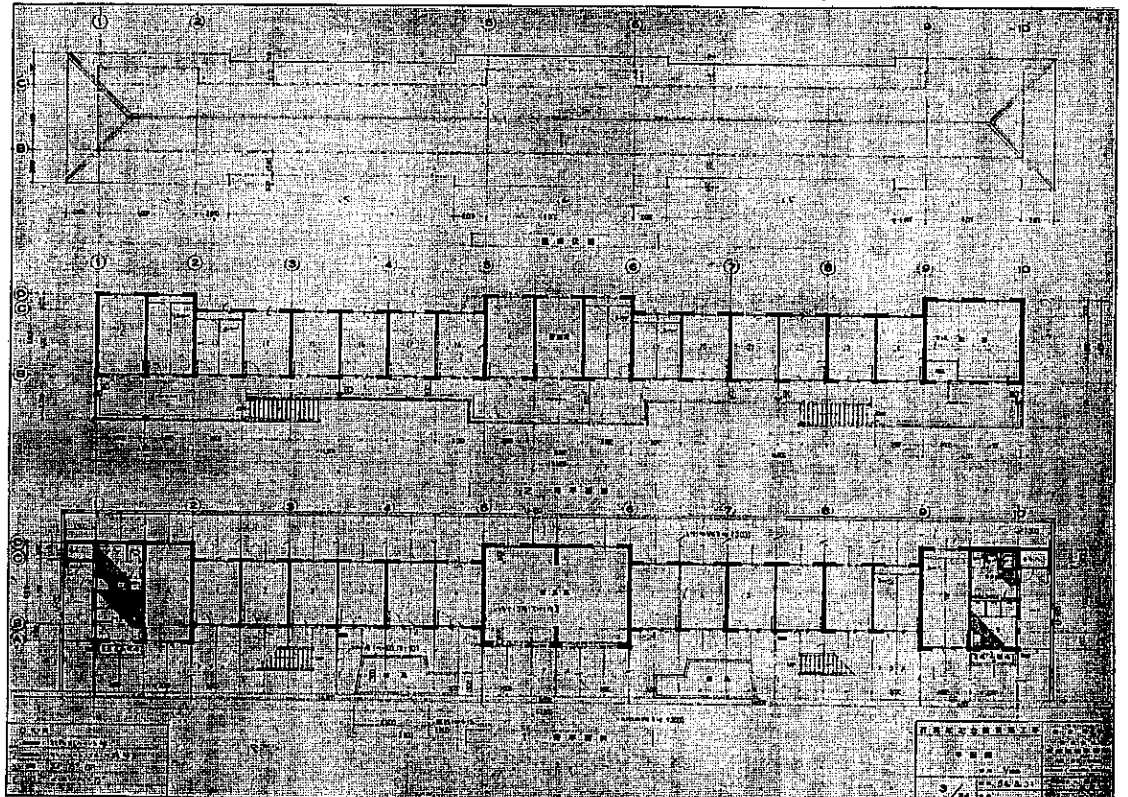
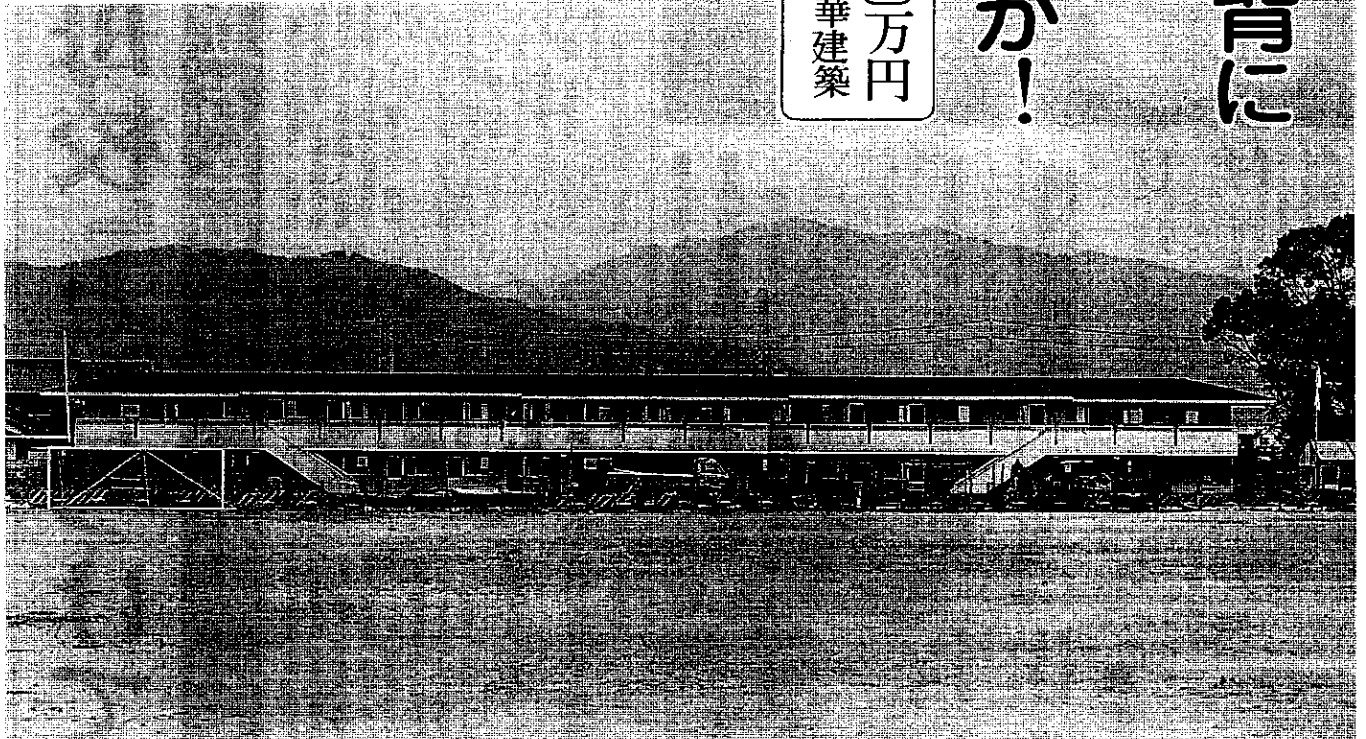
二階建、総面積は 五二三、一八平方メートル

二階建のクラブハウスは、県下にはじめてです。文化、運動クラブが、それぞれここに根拠をかため、後輩たちの活動が期待されています。ほかに、シャワー室、体育教室室、日本間、器具庫などが完備され、全国にも例のない見事なものです。

同窓各位に深い感謝 記念諸事業、必ず完遂！

後輩へこの上ないお返しとして同窓生のみを一人が欠けてくださる記念館が夢に映えています。記念諸事業を必ず完遂し、各位に感謝をこめたいとおもっています。

△学校側事業委員会・藤田裕△



< 記念館の平面図 >

募金総額七、〇〇〇万円 (7.1 現在)

いまこそ、一人残らず義金をお寄せください。

各年度幹事の方々を中心に、同期の方々へお願いの手紙をプリントされ、それぞれになお添書、封筒の宛名をかいてくださるなど、たいへんなお手をわす

らわせ、現在、右のように募り換金が八千名の同窓生から集っています。引きつづき、暑中見舞などにも「母校百年祭」のことを添えて、なつかしの

友から友へご連絡いただき、物価高騰の折ですので、もう一まわり広く協力いただこう、どうぞよろしくおねがいいたします。△同窓会事務局△

10月9日(木)

10月8日(水)



ハレーホール
剣道・弓道
大会も
(それぞれ、10時開会
お申込みは同窓会へ)

二百年へ向って枝を張れ!

在校生が記念植樹

高校生らしい、すがすがしい提案はあ
りません。最初は三十一クラス、お
の一本ずつ植えるんだと、生徒たち
はり切っていました。場所など考慮の
上、一年、二年、三年ごとに一本とい
うこと、少々規模が小さくなりました。



東京混声合唱団

総勢40名、昼夜二回演奏
幕ひらく音楽の夕べ

〈星は2時より在校生、夜は公開30分より〉



田中 信昭氏

待望の「東風」——東京混声合唱団が、
津高百年祭のために、来津します。総勢
四〇名、星の部は一時より在校生が主、
夜は六時半より市民におくる音楽の夕べ
として公演してくれます。八時には終了
の予定です。

いま、前売券(一、〇〇〇円)とポス
ターの印刷ができたところです。わが国
最高の合唱団で、田中信昭氏指揮、プロ
グラムの主なもの、次のとおりです。
①西洋合唱音楽の流れ(レリオラ聖歌)



東京混声合唱団の演奏

キーンアルト(主)②③④⑤⑥「クレールの松
本(一九七八年)⑦⑧⑨⑩「風の馬(一
九九九年)

野田暉行氏が作曲

自らの記念讃歌発表会ひらく
指揮で記念讃歌発表会ひらく

夕刻五時より

百年記念大講演会

講師

駒田信二氏(昭和6年卒)

早稲田大学文学部教授(中国文学)
作家・文艺評論家

西岡久寿弥氏(昭和17年卒)

都立臨床医学総合研究所副所長
WHO免疫専門委員

10月10日(金)

11日(土)、午前十一時から

球団・阪神タイガース社長

小津正次郎さんのお話



母校に在学の頃の
小津さん

小津正次郎さん(昭和七年卒)は、在
学時代には野球部のピッチャーとして鳴
りました。たのしい講演が期待されま
す。(小津さんのお話をきくのは在校生

恒例の秋の津高文化祭も百
年祭に自主参加します。初日、
十日は各クラブなどの展示で
教室という教室は埋められ、
構内店ごと、屋台店も並びま
す。秋の津高の味をお試し
ください。

10・11日の両日
一般公開
津高文化祭

文化祭の二日目は、三重県
文化会館で、音楽部、演劇部
ほか、各文化クラブの出演で
にぎわいます。どうぞ、ご参
観くださって、現代津高生気
質に声援をおくってやってく
ださい。



文化祭
若さと創造の結晶

最終日に

創立百年記念式典

九・三〇受付、一〇時開式
正午、中庭で祝賀会

いよいよ記念式典の日、同窓生、P
T A、地域社会の人々、体育館に集って、
盛大に本校創立百周年記念式典がとりお
こなわれます。還下着男本校校長のあい
さつに引きつづき、各界来賓の祝辞、田
中P T A会長のあいさつ、記念讃歌披露
など、そして悠久一百年、一世紀の本校
史をしのびつつ、物故友人にたいし友情
の黙祷をさげます。

そのあと、正午からは、一同、中庭に
集って祝賀会。なお、時より祝賀にうつ
りますが、ご希望をのり、バスを連
ねて、会場津市農協会館大ホールに移
します。さしまでご参加いただけるよ
う希望いたします。

三つの記念碑除幕も

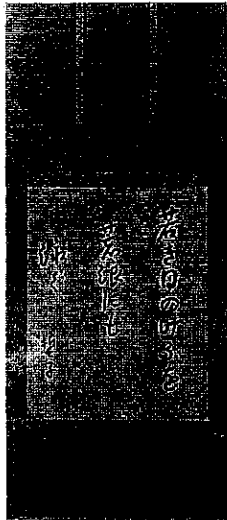
①三重一中跡の碑(西橋内中学敷地に)

②県立高女跡の碑(津実業高校敷地に)

それぞれ、同窓会長、三重県副知事吉
原一真氏の揮毫によるものです。三重県
立津中学校跡、三重県立津高等女学校跡

③誓子句碑立つ

山口誓子先生が来校!



紅麻絹雲母安岩に刻む

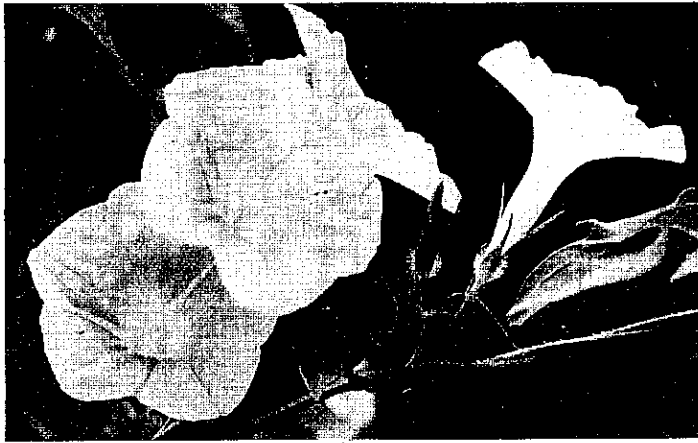
十七号で報告いたしましたように、
津高校歌作者である俳人山口誓子氏が、
創立百年のために贈った句「
若き日のけふを浪にも泳ぐ」
当日は、山口誓子氏が、西宮市からか
けつけてくださって除幕式を催します。
句碑は、正午より向って右の方、笹竹の
しげの中にもものさびで建てられました。
写真は「若き日の……」の真蹟です。

このあと

祝宴は二時より

津市農協会館大ホールで

祝宴の主催は同窓会とP T Aです。申
しわけありませんが、参加者はお一人
五〇〇〇円、会費をいただきます。会場
の津市農協会館へはバスを用意いたして
おります。なお、お料理には交通補償に
注意ください。



七里亀之助編集委員長

『あゝ母校』と名づけて出版

創立百年記念誌、ただいま印刷中

創立二〇〇年記念誌は、大正十三年の郷土史家、七里亀之助氏を委員長として十余名で組織された編集委員会のみさんの献身的な努力によって、すでに編纂を完了、印刷中です。

「百年史」にするか、「百年記念誌」とするかで、その性格が議論され、「史」と「誌」の両方の性格をもつて、しかも親しみやすいものにしたという基本方針がとられ、「あゝ、母校」と名づけて、いよいよ出版されます。

二〇〇年をしのがつかしい資料



野田彦四郎教授

写真、実に数頁も、大河一中をさが

お早いめにお申込みください

頒価三、〇〇〇円(送料別) 限定出版六、〇〇〇部

お申込み先は、津市新町三一一一 津高同窓会事務局へ

「のぼる」と題する野田彦四郎教授の津中明治史がその巻頭を飾っています。母が詩人の伊良子清白作家、中山義秀、俳人、長谷川素直など、これまでの文献にはみられないその身辺日常が、母校と結びついて語られるなど、まことに立派な開校当初の事情とその沿革について、伊藤草光潤氏

藤子や文史家が筆をふるっています。以下、各時代を概説する松島宏博士、今村房文史、学問研究の第一線活躍する先賢学者が、みずからその研究の紹介を、総じて五〇ページ、B5変形版美刷印刷で、表紙題字は日展作家、本校教諭草光潤氏。

きたる八月三日

津高同窓会総会

津商工会議所ホールで

百年祭をあと二日後にひかえて、今夏の総会は、一段と重要かつ、下のようなポストもすでにでき、まもなく街頭に貼りだされます。

来年度総会は八月一日(日) 来年の津高同窓会総会、つまり

一〇一年の総会は昭和五十六年八月一日(日)一時半より、同じく、

創立百年 津高同窓会総会

8.3日 午後1:30 津商工会議所

総会ポスター



55 三重桜総会風景 一福社会館にて

朝顔の花がすぎなみならず軒先に出ますと、もうひらいてわたしの冴えないあたまの中がハーツといっぺんにすがしくなり回転しはじめます

朝顔はむすめ

四十五度の朝日がさすとふるえるような

尊のせん毛

山路きよよ

来年の三重桜総会は 4月29日11時からです

津実高体育館(旧県立津高女)

五十年度の三重桜の部総会は、過日、四月二十七日におえました。津市福祉会館ホールに津高同窓会、長吉原一真氏を招き、約二〇名の会員参加のもとに、盛大にひらかれました。今村房文、佐々木かよ氏はかよりのあいさつや報告を受け、旧交をたためました。

鈴木規子さんが入選 百年祭標語決まる

生徒諸君の発表で、津高百年の標語が集り、その数、二六九句。まったく、自主的積極的な高校生らしい百年祭への参加ぶりというべきです。

国語科の先生方の選によって、補作のうえ、次の五句が先ずえらばれ、その中から「出版のとき回想のとき津高百年」が入選しました。

- 入選 出版のとき回想のとき津高百年 二年八組 鈴木規子
- 佳作 これからはわれらがつくる一世紀 二年二組 豊井久史
- 佳作 未来へつなげ津高百年 二年七組 和田 晋
- 佳作 津高百年、じいちゃん、かあちゃん、ぼく、わたし 一年十一組 中村直樹
- 佳作 百年の歴史を越えて 三年十組 岩武昭男

さて、来年度の三重桜総会は、昭和五十六年四月二十九日午前十時からです。場所は津実高体育館、つまり、柳山県立津高女校です。

さる七月六日に 京都同窓会

京都同窓会(会長、中村信之)は、大正十三年(辛)は、約三十名の京都在住者が集り、本部から吉原会長、徳田静子副会長、佐藤津高教頭らも出席して在学区下鴨津高町の「生研会館」で盛んに開催されました。

高校卒の人の参加が少なく、若い世代の人々の参加がぞめられました。

名古屋同窓会が再建

さる七月一日、百余名の名古屋在住同窓生が集り、久々に名古屋在住同窓会が再建されました。

三愛物産社長立井重太郎さん(昭和二年卒)が会長に推され、昭和十七年の鈴木正治さんが事務局をお引き受けたいています。

(愛知県海部郡飛村木場一丁目二五番地、瑞穂合版社) 電話〇五六七五―一五六九 郵便番号四九〇―一四

東京同窓会 十一月八日(日)午後一時半より市ヶ谷「私学会館」

連絡先 中央区日本橋一六六 四三興業株式会社内 (電話三五九六)

大阪同窓会 十一月十六日(日)十一時より梅田阪神百貨店アトリンルーム九階ホール

連絡先 東成区深江南二丁目三二五野崎病院内 (電話三三二五)